

校長室だより

No. 36

平成29年1月26日(木)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かず
加藤嘉一

おやゼミの大きな価値 —保護者・地域が示すキャリア教育・生涯学習—

いつの頃からでしょうか。職業の種類や仕事の仕方が少しずつ変わり、親の仕事の様子を直接子供が見る機会が少なくなりました。おじいさん、おばあさん方の世代なら、農作業といった仕事についてなど、親の仕事を手伝う機会もあったでしょうが、今は少数ではないかと想像します。

また、現代では、個人経営のお店が少なくなってきたり、手工業も大規模工業化されてきたため見えにくくなったり、仕事内容のイメージできない職業が多くなったように感じます。今、子供たちには仕事内容のわからない職業が多くあります。そして、よく聞く職業であっても、自分のもととなる職業観がないため、つないで考えることができない子供もいるのではないのでしょうか。

これとは別に、昨今では大人が学び続ける生涯学習の理念・環境も広がってきました。平成18年に改正された教育基本法、19年の学校教育法、20年の学習指導要領では、「キャリア教育(注)」「生涯学習」の理念、趣旨が新たに規定されました。2年前から始まった「おやゼミ」は、これらの子供の実態、時代背景に即した大変価値ある取り組みだとわたしは考えています。

「おやゼミ」をPTAの方々が始めてくださったと昨年聞き、感動しました。「おやゼミ」には、仕事の内容や仕組みを教えてください、コーナーだけでなく、趣味・特技を生かし子供に素敵な生活の楽しみ方を体験させてくれるコーナーもあります。書物やインターネットで調べる学びでなく、目の前にその人がいる貴重な学習です。子供のために一肌脱いでくださった保護者・地域の方に心から感謝です。



【昨年の「おやゼミ」授業風景】

本年度は、各コーナーを「職業」や「趣味・特技」、「地域の仕事」といった観点で項目わけをし、それぞれのコーナーが何にかかわるものかを子供たちにはっきり示して、参加するときの意識付けをすることにしました。(裏面参照)子供の将来に生きる一日になると信じています。

(注) キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

〈おやゼミ講師・講座名・場所等の一覧表〉

	講師氏名 (敬省略)	講座テーマ	講座の概要	場所
将来の仕事について考えよう	山本 治	消防士の仕事	消防士の仕事（震災救助や消防署の仕事）を学びます。本物の消防服も着用します。	1の1教室
	鈴木ひとみ	看護師の仕事とみんなの未来	看護師の仕事、小児科病棟の紹介、体験活動を行います。	2の2教室
	大久保 勲	介護の仕事	介護について私たちができる援助の方法を学びます。車椅子体験も行います。	1の2教室
	蜂須賀 厚	大工の仕事	大工さんの卓越した技術を学びます。実際に木を切る、釘を打つ体験をします。	図工室
	田中 英次	電気の不思議	電気の不思議さを学びます。	理科室
	萩原 京子	外国と英語のはなし	日本との文化や習慣の違いや海外の学校生活など、経験から英語の楽しさや大切さを考え、話す体験をします。	3の1教室
スポーツに親しもう	宮本 大介	オレのサッカー	サッカーの楽しさを感じてもらいます。パスからシュートに繋がります。	運動場東側
	杉浦 恵子	楽しく走ろう	走るために必要な基本の動きや、身体全体を使って楽しく走ります。	運動場中央 体育館
	小椎尾紀行	バスケットボール	ドリブルやシュートをマスターして楽しくバスケットボールを行います。	体育館
地域の仕事を学ぼう	筒井 陽介	消防団の仕事を知ろう	消防団の仕事を知ります。ホース延長、水消火器を体験します。	運動場西側・ 体育館
	伊奈 美穂	つまみ細工で小物作り	ちりめん布を使いつまみ細工で花のモチーフを作りアクセサリーにします。	5の1教室
	杉浦 清丸	鳥のはなし 鳥見	望遠鏡を使い、遠くの鳥を観察し楽しめます。	メイン花壇付近 雨天 音楽室

地域の仕事を学ぼう

書初めの風景

「おやゼミ」と同時に開催する「ちゅうぶだいすきデー」。書初めも展示されます。字から子供の姿が思い浮かびます。



【A先生の記録より】

書き初め大会に初めて挑戦する1年生のまっすぐに伸びた背すじが印象的でした。鉛筆検定の合格者が多かった1・2年生は、さすがに持ち方がしっかりしていて、ひと文字ひと文字がとても丁寧です。手本の添え方、中心線の意識、書き始めの位置、はねやはらい、結びの形など、どのクラスも指導が徹底されています。低学年で身に付ける文字を書く力は、人として、人とかがわり合って生きる手立てのひとつとして、大切な基盤になると思います。ノートの取り方、記録の仕方、思考の表現につながるよう学習場面に生かしていきたいです。

〇年生のBさんは、立って書いていました。筆に込められる気持ちの強さを感じました。字の上達を願う宮中行事から始まった伝統が、今の子供たちにとっても、慣れ親しみのある年中行事になっているのいいです。